

## 評価シート 様式

取組名	産業遺産・環境産業観光プロジェクト		
実施団体名	秋田県北部エコタウン地域環境産業観光推進協議会	対象地域	秋田県鹿角市、小坂町及び大館市地区
(代表団体名)	(財)秋田県資源技術開発機構	推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	産業遺産・環境産業観光プロジェクト		
実施団体名	秋田県北部エコタウン地域環境産業観光推進協議会	対象地域	秋田県鹿角市、小坂町及び大館市地区
(代表団体名)	(財)秋田県資源技術開発機構	推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見 鉱山遺産、リサイクル施設、自然という3つの要素を有機的に結びつけ、教育観光という新たなツーリズムに発展させつつある点において、複合性・先導性が認められる。 また、秋田北部地域における新たな産業を興す可能性を秘めているという点において、波及効果も認められる。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、鉱山の歴史や環境リサイクルの現状等を説明できる案内人の育成をはじめとする地域の受入体制を構築しつつ、修学旅行の誘致を図るなど教育観光振興につながりつつある点において評価できる。今後は、以下の点に留意しつつ、地方の元気再生事業を継続することにより、本格的な展開が期待できるものである。
	次年度以降については、エコタウンセンターの本格稼働とそれによる教育観光地としての確立につながる取組を重点的に実施すべきである。具体的には、雇用関連事業の活用によるエコタウンの本格運営や案内人をはじめとする人材育成には引き続き取り組まれない。他方で海外向け情報発信については、まずは国内をターゲットにした教育観光の確立をすべきとの観点から、実施の要否も含めて見直されたい。 宿泊箇所や移動手段の確保も含めた産業観光モデルコースの構築や教育旅行誘致や団塊世代を対象にした旅行誘致については、次年度の最重要課題であり、実施すべきである。また、地元住民を対象としたリサイクルへの理解促進についても、地域ぐるみで教育旅行先進地となるためには重要な取組であり実施すべきである。 いずれの取組においても、関係機関間の連携をより緊密なものとしつつ実施することが望まれる。